



木村佳司

愛知で燃え上がっていたのは日本チームだけではない。次々と展開されたドラマを振り返ってみる。

2005 世界選手権大会国別対抗リレー
2005年8月14日(日)
愛知県作手村鬼久保ふれあい広場

シモーネ(スイス)4冠

シモーネ、シモーネ、シモーネ。愛知世界選手権は彼女のために開催されたかのような印象さえ受ける。この日までスプリント、ミドル、ロングの個人戦3種目をすべて制覇したスイスのシモーネ・ニグリ・ルーダ。その圧倒的な強さには舌を巻いた。

しかしこの日は国別対抗リレー。彼女はスイス女子3名メンバーのうちのひとりに過ぎない。リレーでも勝って世界選手権を完全制覇するためには彼女ひとりの力だけではどうにもならないはずだ。

しかしスイス女子とシモーネは素晴らしい走りを見せ、リレーでも優勝した。その結果、シモーネは愛知世界選手権の4種目すべてで金メダルを獲得した。これで彼女がいままでの世界選手権で獲得した金メダルは10個になった。

シモーネが世界選手権を完全制覇するのは実は初めてではない。2003年に彼女の地元スイスで開催された世界選手権でも4種目全制覇を果たしている。

「4冠なんて二度とできない」彼女はそのときそう言った。しかし、愛知世界選手権の後、「もう一度4冠達成できないとは言わない。」と次回の世界選手権に対しても意欲をみせた。

女子のレース展開

女子の1走はノルウェーとスウェーデンという北欧の強国のガチンコ勝負から始まった。

ノルウェーとスウェーデンが激しく競り合いながら2走にチェンジオーバ

ー。3位以下を3分も引き離すロケットスタートを切った。



女子1走。マリアンヌ・アンダーセン(ノルウェー左)とイエニー・ヨハンソン(スウェーデン右)が激しくぶつかる。

スイス女子の1走はレア・ミュラー。今回の世界選手権個人種目ではスプリント23位の成績を残しただけで、スイス女子の中で最も不安要素が大きな選手だ。しかし、彼女は素晴らしい走りで3位グループにいた。トップとは3分差があるが、このあとにはロング種目の1位と3位が待っているのだ。レア・ミュラーの走りによりスイスは優勝へ大きく近づいた。

2走のカロリナでスウェーデンがトップへ出た。2位のノルウェーに1分以上の差をつけた。スイスの3走にシモーネがいるので、3走までのチェンジオーバーまでに出来る限りスイスとは差を広げておきたいスウェーデン。

しかしスイス2走のブローニはロング銅メダルの実力の持ち主。カロリナを上回る好タイムで上位を追撃した。ブローニはヘリ・ユッコラ（フィンランド2走）と3位争いを演じ、その流れに上手く乗れたようだ。



スイス女子 優勝の美酒
シャンパンを開けるシモーネと喜ぶブローニ



カロリナ（スウェーデン2走）がノルウェーを1分以上離してアンカーへチェンジオーバー。しかし、ブローニ（スイス2走）はカロリナより好タイムで追撃していた。

1位と2分20秒差の4位で飛び出していったシモーネ（スイス3走）。その差はあっという間に縮まった。会場横を走る中間地点ですでに僅差のトップに立ち、後半のループに入ってもそのスピードは衰えない。女子の中で唯一区間タイム40分を切る驚異的な速さでスイス女子を優勝へと導いた。

2位にはノルウェーが入った。スプリント2位のアンヌ（ノルウェー3走）がエンマ（スウェーデン）を抜いた。3位にはスウェーデン。4位はフィンランド。やはり北欧各国は強い。

男子ノルウェーが連覇

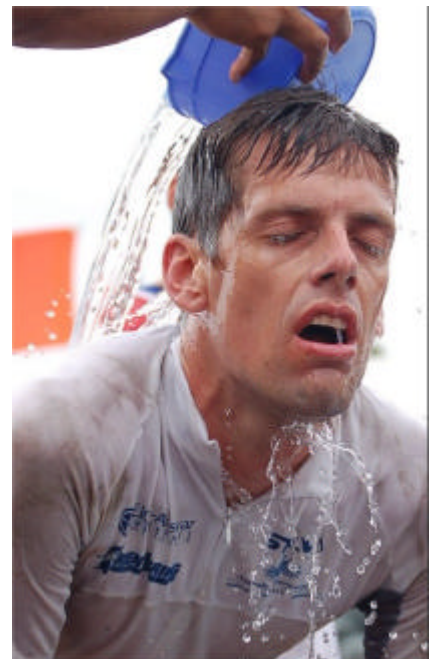
男子は女子以上に混戦となった。いったいどこが優勝をさらうのか全く予想できなかった。

結果はノルウェーのリレー連覇。ヨルゲン・ロストラップ（ノルウェー3走）が最初にフィニッシュレーンに飛び込んできた。

フィニッシュレーンではオスロのテレビ局がカメラを据え付けて、このときを待っていたとばかりに取材を行っていた。愛知ではここまでノルウェーに金メダルはなかった。リレー金メダルの獲得にノルウェーのメディアも興奮していた。



1走トップを走るホルゲン・ホット・ヨハンセン（ノルウェー）、2位のヤルコ・フオヴィラ（フィンランド）、3位のフランソワ・ゴノン（フランス）



暑い！フィニッシュ後に水を浴びるグラント・ブルイット（オーストラリア）。2001年秋田ワールドゲームズのチャンピオンとして日本でもお馴染み。

男子レースの展開

上位はスウェーデン、ノルウェー、フィンランドの北欧3国に、スイスとフランスを加えた5カ国で展開した。

1走ではホルゲン・ホット・ヨハンセン（ノルウェー1走）がトップを走るものの、上位5カ国が1分以内にひしめく接戦となった。



ノルウェーのウイニングラン
ホルガー・ホット・ヨハンセン / ヨルゲン・ロストラップ / エイシュタイン・クリルチャンセン

2走になっても接戦は変わらない。この愛知で絶好調のマーク・ローエンセンでスイスがトップに立ち、もしや女子とアベック優勝をするのではという期待も。

しかし2走終了時点で、1位のスイスから4位ノルウェーまでの差は1分もない。レースはアンカー勝負になった。

上位国ではアンカーにエースを配置してくる。ミドルディスタンスを走らせたなら世界無敵のティエリー・ジョルジュを3走に擁するフランスが優勝最右翼か・・・、またはスプリントの王者エミールのスピードに賭けたスウェーデンか・・・



マイク・ローエンセン(スイス2走)でトップに会場ではスイス国旗がはためく

そんな中、ノルウェーのエース、ヨルゲン・ロストラップがフィニッシュレーンに姿を現した。ミドルの帝王・ティエリーが敗れた。やはり集団で走るリレーと個人戦は別物なのだ。

いつもは完璧なレース運びを誇るティエリー(フランス)も最後の最後で僅かなミスがあったようだ。残念ながら優勝こそ逃したがフランス男子は堂々の2位だ。



ミドルの帝王・ティエリー。
一歩及ばずフランス2位

3位にはスイスが入った、スウェーデンの追撃を受けながらなんとかダニエルはふんばった。スプリントの銀メダリストのダニエルでも、ミドルでは下に沈んでいた。そのウサを晴らす快

走を見せた。



3位のメダルを死守したダニエル(スイス3走)、スプリント決勝で敗れたエミール(スウェーデン3走)の追い上げを意地で退けた瞬間。気迫が伝わってくる。



スウェーデン追い上げるも、あと8秒で銅メダルに手が届かず。フィニッシュ後崩れ落ちるエミール。

これが世界選手権だ

この世界選手権に情熱をぶつける選手と役員。とにかく気迫がすごい。追い込み方がすごい。強いものが勝つ。ただ単純にそれだけ。しかし勝ち負けの差は紙一重だ。

ピリピリした空気はレンズを通して伝わってくるし、その空気に触れるだけで力が湧いてくる感覚を覚える。

そう、これが世界選手権だ。愛知世界選手権だ。



見事、優勝したノルウェー男子。2006年はデンマークで3連覇を果たすことができるだろうか？

(木村佳司)